



東山小学校だより

令和3年2月10日

※ 町内配付2月10日

教育目標 「心豊かに たくましく 自ら学ぶ 東山の子」

「ラーメン教育」…生活目標の取組

1,2月の生活目標の取組の一つ、「クラス対抗山っ子テスト『スーパーカップ』」のラーメンに少しずつ具材が入ってきました。これは「山っ子テスト」の満点者の人数に応じてもらったポイントでチャーシューや煮卵など様々な具材をもらい、クラス全員で協力して具材がたくさんのおいしいラーメンを作ろうという取組です。

この取組…2学期のある日、教務室で「ラーメン教育」という言葉を紹介したのを逆手(?)にとって、子どもたちが楽しんで取り組めるのでは?と先生方が計画したものです。



「ラーメン教育」…私が若かりし頃に先輩教師に教わった言葉です。一部の教師の間で使われていた言葉か…その先輩教師の造語かもしれません。何を意味するのは、大方予想がつくとは思いますが、要するにモノで釣る教育や指導を指します。例えば部活動の顧問の先生が「試合に勝ったらラーメン食いに連れてってやるぞ～」とやる気を起こさせる…つまり、馬の鼻先のニンジンです。もちろん良いことではなく、先輩教師

もダメな指導法として教えてくれたのですが、以前は割とよく聞く(ある)話でした。

ところで、いかがでしょう?ご家庭で「ラーメン教育」はなさってないでしょうか。子どもたちから、「〇〇したら〇〇を買ってもらえるんだ」ということを聞くことがあります。恥ずかしながら私も子育ての中で、やってしまった経験があります。インターネットで次のような記事を見つけたので抜粋してご紹介します。

お金や物で釣ろうとする親はけっこういます。なぜなら、即効性があるからです。ガミガミ叱らなくても手っ取り早く効果が出るので、つい手を出してしまうのです。でも、このご褒美方式には弊害があります。そして、それはすぐに目に見えることはなくても、やがて確実に表れてくるものなのです。やがて「もっとたくさん欲しい」とか「何かくれないと勉強しない」と言い出す可能性はかなり高いです。

いちばん深刻なのが、物事の認識や価値観に影響を与えることです。たとえば、お金や物で釣って勉強をさせていると、子どもは「勉強するのはお金や物をもらうため」という意識が強くなります。お金や物をもらうことが目的になってしまうのです。これでは、勉強そのものの面白さや価値を知ることはできません。それどころか無意識のうちに、「勉強とはご褒美がないとやれないくらい嫌なものなのだ」という認識ができてしまう可能性があります。

これでは、先々「勉強が好きになって自主的に勉強する」という状態に近づいていくのは難しくなるでしょう。その可能性をあらかじめ摘み取ってしまっているのですから。勉強だけでなく、同じようなことが生活習慣、お手伝いや仕事など、何事においても起こります。即効性はあっても、長期的にみると弊害のほうが大きいのです。

記事にはこの後、海外の大学で行われた実験なども紹介されていて、なかなか興味深い記事です。一般的にこの記事に書かれていることは的を射ていると思いますが、2年ほど前に「初耳学」という番組の中で林修先生は「ご褒美教育はアリ」と言っていました。ただしそれは、「結果」に対してのご褒美ではなく、「過程」に対してのご褒美ということでした。

さて、今回の学校の取組は是か否か…結果に応じてポイントを得るのですが、そこにはクラス全員で協力してテストに向けて取り組み、話し合う過程があります。ご褒美は「もらえる・もらえない」ではなく段階があります。そしてもちろん本物のラーメンではありません。これらのことから弊害はない…あっても効果の方が大きいと考えました。ポイントの対象となる「山っ子テスト」はあと3回。どんな具材のあったラーメンができるのか楽しみです。

親善スキー大会 & 激励会

2月6日(土)市内親善スキー大会・小千谷市民スキー大会が、白山運動公園グラウンドで行われました。例によって保護者、観客の来場は禁止、学校職員も人数制限が設けられ、選手(児童)は保護者送迎でレース(アップ)直前に会場に来て、レースが終わったらすぐ帰るというコロナ感染防止対策がとられました。まずは開催できて何よりです。



昨年は降雪不足で中止となってしまいましたが今年は十分な降雪。天候は晴れ。日差しがありながらも冷え込んでいるという最高のコンディションでの大会となりました。また来場禁止の対応としてTwitterでレース結果や画像配信、YouTubeではレースのLive配信が行われました。他の学校は、学校外のクラブに所属している児童が中心となって出場していますが、東山小学校は例年、3年生以上は原則全員参加してきました。今年は3年生以下のレースにも2年生2名がエントリーし、全校19名中14名が出場しました。

レーシングスーツを着た他校の選手を相手に健闘するも、残念ながら上位入賞を果たせませんでした。しかし、12月から取り組んできたスキー授業・課外スキーの一つの節目として意義深い大会です。子どもたちにとって大切な経験であろうと思います。お休みのところ、また来場・観戦ができないにもかかわらず送迎して下さった保護者の皆さま、大変ありがとうございました。



大会の2日前の児童朝会で「親善スキー大会激励会」が行われました。大会には出場しない1,2年生の大翔さん、樹さん、優翔さんの3名が中心となって企画運営を行いました。1,2年生が企画運営し…それも工夫を凝らして激励会を成功させるなど、他の学校ではなかなか考えられないことです。プログラムの一番最後には、先生方も一緒に「元気玉注入!」を行いました。下級生の運営に corres するように、上級生14名の選手が各々堂々と具体的なめあてを発表してくれました。東山小学校ならではの素晴らしい激励会でした。



全校アルペンスキー教室

1月29日(金)に古志高原スキー場でアルペンスキー教室を行いました。数日前からの天気予報では当日は「大荒れ・冬の嵐…台風並みの暴風」の予報。しかし前日はとても穏やかな天候だったので、暴風雪など全くイメージできず呑気に構えていたのですが、当日朝には愕然とする暴風雪になっていました。雷注意報も出ていたので、雷が鳴るか、暴風でリフトが運休になったら中止・短縮もやむを得ないと覚悟を決めて古志高原に向かいました。



午前1時間半と午後1時間は技術や経験によって4班に分かれて講習を行い、その後約1時間は職員の目の届く範囲で自由に滑ったり、雪遊びやソリ滑りを楽しんだりしました。



それにしても子どもたちの上達ぶりには驚きます…一本滑るたびに上達していくようにすら見えます。最後のフリータイムには一人ひとり思い思いのシュプールを描いていました。なんと午前中には初心者のD班に滑っていた子が、フリータイムにリフト直下の急斜面を滑っているのを見て驚きました。子どもはさすがです。

雪は時々小降りになるものの止むことがなく、コンディションとしては大変な一日でしたが、子どもたちは楽しそうにスキーを楽しみ、スキーの腕(脚)前を上げました。

